



『ソブによる製鉄』

昨年12月号に『粘土から鉄をつくる』の記事をか書きましたが、その後、大阪府にお住まいのY様より新しい情報を得ました。インターネット上にソブ（赤い色の水）の沈殿物から鉄を作っている研究会があるとのこと。早速ホームページを検索し、福井県、あわら市にある『加越たたら研究会』を知り、電話を入れました。『ソブ製鉄の原料・木炭・出来上がった鉄』などを『鉄のふしぎ博物館』に展示したいので送って欲しいと依頼しました。

4月12日、宇都宮高栄様からそれらが到着。手紙には作業風景の写真や作業工程と作業内容が細かく記載されています。2010年4月10日、NPO加越たたら研究会の作業場（宇都宮宅）で、ソブからの製鉄を実施しました。ようやく、できたばかりの鋸（ケラ）などを、展示用にお届けすることができます。

- ① ソブ(液状) ② 焙焼ソブ板 ③ 木炭 ④ 粗鋸 ⑤ 卸鉄後の鋸(2009年製)



① ソブ (液状)



2010.04.12
宇都宮 高栄



⑤ 卸鉄後の鋸 (2009年製)



加越たたら研究会の皆さん



製鉄風景



ソブ採集



② 焙焼ソブ板



③ 木炭



④ 粗鋸

「鉄のふしぎ博物館」展示中

疑問が湧き、質問をしました。『[どうしてソブによる製鉄にこだわっておられますか？](#)』

近隣に、年代は不明なのですが製鉄遺跡が多く残っています。古代の人々はどんな方法で製鉄したのか？知りたくて初めました。当初、原料は砂鉄しか頭にはありませんでした、砂鉄を探すうちに、各所で、地層の露頭など鉄分が赤く濃縮しているところを見つけました。また、海岸の焼き火跡や赤土を焼けば、砂鉄でなくても磁石に着くことに気づきました。赤茶色している土も酸化鉄だから原料になると思い採取し、単に乾燥しただけでいきなり2001年元旦にオイル缶炉で製鉄を試みましたが、みごとに失敗しました。


それから赤い土を焙焼（ばいしょう）したり、塊を一定の大きさにするため糊をつかったり種々工夫しました。現在、研究会では「世の東西を問わず古代から、身近な原料「ソブ」を使って製鉄をしていたにちがいない」と考えています。

「鉄のふしぎ博物館」開館

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。

ぜひお越しください。



むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>
ryou@memenet.or.jp
bike@kanamonoya.co.jp



何でもお気軽にお尋ねください！！